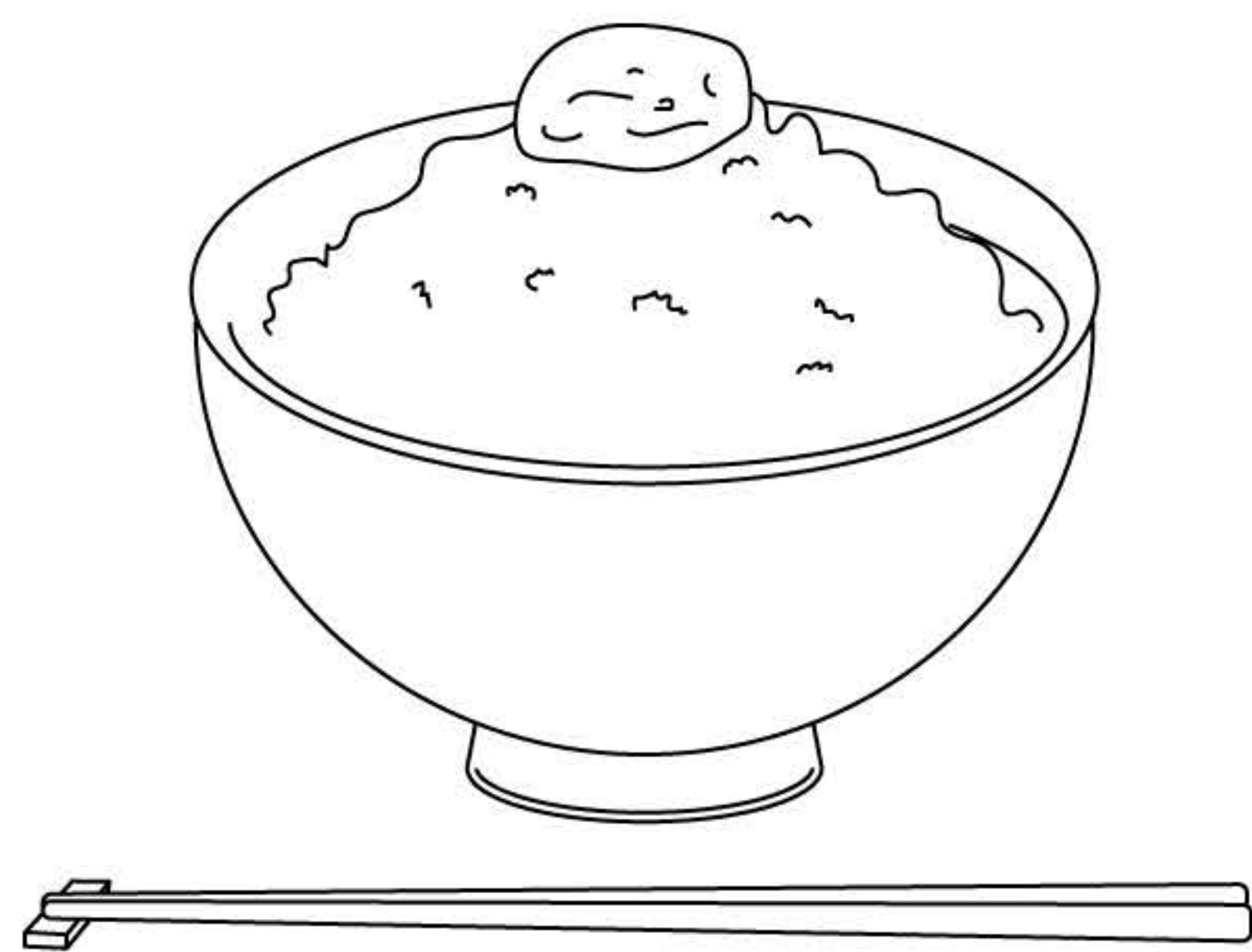


食べることで未来を変える

コープ自然派のお米と小麦のおはなし

私たちの主食を守る取り組み
2022



一杯のごはんから
未来が始まります

コープ自然派

毎日の食べものを選ぶことは、
がんばっている生産者さんを支えること。
いのちあふれる田畑をよみがえらせること。
食卓から、社会を変えていくこと。

おともだちもいっしょに食を大切に暮らす #ひろがる有機

組合員が 生協を育てる

ご利用中の組合員さんの
30%以上が
紹介による加入です。
組合員が増えることは、
買い支えるチカラが増
えること。
安心・安全な本物の食
べものづくりは、組合
員が商品開発に参加し
て、みんなで買い支え
て生産者を応援し、お
互いに支えあう信頼関
係から生まれます。
組合員の手で私たちが
欲しい商品、欲しい暮
らしを実現しましょう。

自然派 Style

Organic

子どもが大好きなもので、
おいしさと、安全を。
国産オーガニックのおやつも、
毎日食べられる価格でつくりたい。

欲しい商品が実現する

こだわりの加工品も、
受注が増えて製造量が多くなれば、
商品開発しやすくなります。
そして、利用結集することで
価格を下げることも可能になります。

有機がひろがる

有機のお米や野菜を
買い支える人が増えれば、
いのち豊かな田んぼや畑がひろがり
ます。
有機農業をしたい若手生産者を
応援し、
有機農家を増やすことができます。



キッチンカーで コープ自然派 プチ体験

コープ自然派の美味しいものや
取り組みを知ってもらいたくて、
組合員さん宅やフレンドショップ、
駅のロータリーなどに店出しています。
おともだちもいっしょに
キッチンカー体験に来てください。



コープ自然派から
国産オーガニックを
広げよう

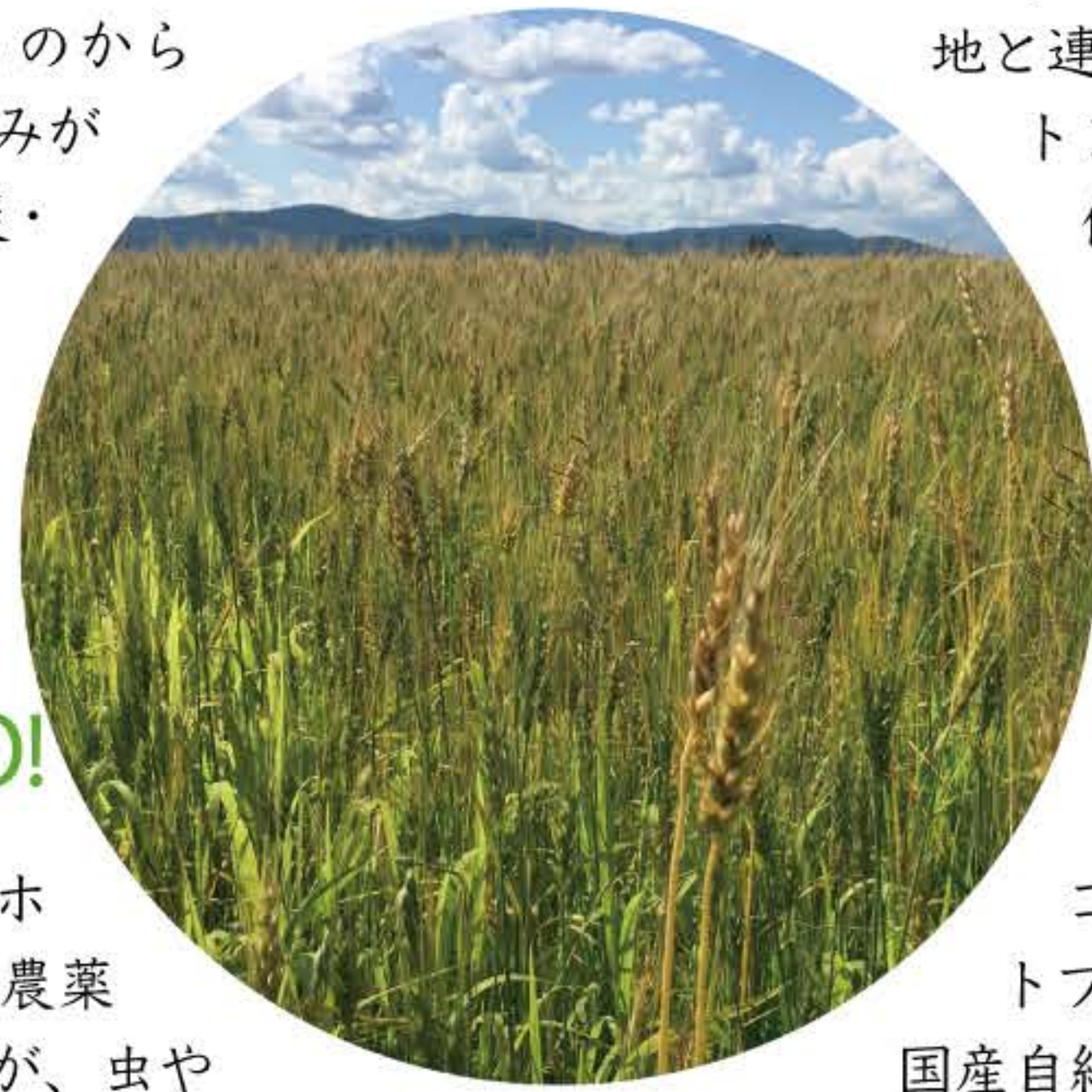


食卓から未来を変える

コープ自然派は「誰もが有機農産物を食べられる社会」をめざしています。

有機農業は いのちを増やす農業

食べることは生きること。日本の食料自給率はわずか 38%、農業を大切にしていなかった結果と言えるでしょう。農業のあり方は、人の健康だけでなく環境も左右します。土の中の生きものから始まるいのちの連鎖をよみがえらせ、持続可能な食・農・環境を創るために、コープ自然派は有機農業を推進します。



ネオニコ NO! グリホサート NO!

ネオニコ系農薬もグリホサートもとてもよく効く農薬なので多用されていますが、虫や草だけでなく動物や人間への影響も指摘されています。コープ自然派では生産者と協力して危険な農薬の排除に取り組み、商品カタログにはネオニコとグリホサート不使用マークを掲載しています。

有機の学校を ひろげよう



有機農業を広げる課題は有機農家を増やすこと。コープ自然派は 2007 年、徳島で有機の学校づくりを開始。2021 年には熊本にも「ORGANIC SMILE」を設立し、徳島と熊本で若手有機農家を育成しています。

給食を オーガニックに



コープ自然派の各生協ではオーガニック給食を広げようと様々な活動を展開しています。地域の有機農家を増やす取り組みや、大産地とつないで有機農産物を給食に納入する取り組みも行なっています。

パンの小麦も 国産&オーガニック!

パン用小麦の自給率はたったの 3%! アメリカ・カナダの輸入小麦の 9 割以上から残留農薬グリホサートが検出されています。コープ自然派では国産小麦に加え、産地と連携して国産有機小麦 1000 トン確保をめざし、小麦の輪作で生産される有機農産物の利用も広げ、コープ自然派から国産オーガニックを広げていきます。

自然派 Style オーガニック

コープ自然派のプライベートブランド「自然派 Style」は、国産自給率 UP をめざして国産にこだわり、食品添加物に頼らない商品開発をすすめています。そしていま取り組んでいるのが「自然派 Style オーガニック」。子どもたちの未来のために、食べる人も農業も環境も守る商品づくりです。

コウノトリがすむ 田んぼを広げよう!



ビオトープ米

地域まるごと
ネオニコフリーへ

ツルをよぶお米
(省農薬)

生きもの豊かな
田んぼへ

ツルをよぶお米
(無農薬)

地域まるごと
無農薬!

食も農も環境も守る

田んぼは私たちの主食お米を生産するだけでなく、様々な生きものを育み、雨季には雨を溜め、その水は川から海へと流れて豊かな漁場となり、稲作を中心とした食文化を形づくってきました。けれど今、お米の消費量の減少や農家の高齢化によって田んぼが減り続けています。

日本の農業を守り、食料自給率を高めるためには、お米の利用を広げることがとても大切です。そして、豊かな自然を守り、健康を守るためには、神経毒性のあるネオニコチノイド系農薬などを排除する必要があります。

ナベヅルの飛来地をつくる「ツルをよぶお米」は、省農薬、無農薬での栽培が広がり、ナベヅルだけでなくコウノトリも飛来し繁殖するまでに自然環境が復活しています。

さらにコウノトリが棲める環境を広げようと、コープ自然派は J A 東とくしまと連携し、慣行農業から省農薬、無・有機へとステップアップする「ビオトープ米」の取組を始めました。2021 年度産のビオトープ米は本田でのネオニコチノイド系農薬の使用を廃止。最終的には「地域まるごと無農薬」をめざして取り組みをすすめていきます。